

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス（四天王寺悲田院児童発達支援センター）		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39 (回答者数)	34
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月 8日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・集団活動における全体での取組み	出席している全員がプログラム活動に参加することを念頭においており、基本ルールでの参加が難しい児童には、本人なりの参加方法を提案して、集団の中で他者交流や取組みができるようにしている。	周囲への折り合いや、自己発信が難しい児童に対して、視覚的に見通しがつく選択肢の提案をしていく。
2	・広い設備を利用した活動内容 ・活動プログラムのバリエーションの多さ	グラウンド、ホール、多目的室、主の活動部屋等、児童がしたい活動に合わせて場所を提供することが出来る環境にある。それぞれの場所に、職員の見守りを配置しており、児童も安心して遊べるように配慮をしている。 また、毎日異なる活動プログラムを提示しており、児童自身も選ぶ楽しさが経験できるよう、積極性が保てるように設定を組んでいる。	児童自身から、行いたい活動やリクエストを聞く機会を設けている。今後も「言ってみてよかった」という感覚を身に付け、大人と子供と一緒に考え、実現することを活動内容に結びつけたい。
3	・学校との連携や保護者に寄り添った支援	日常的な活動報告や、面談の際に保護者と話すことを大切にしており、各職員時間をとるようにしている。また、保護者から学校での相談があった際には、学校教員も交えたケース会議を開催する等、デイサービスだけの視点ではなく、広い範囲で児童の支援に繋がるように意識して取り組んでいる。	不登校傾向にある児童の支援等、保護者・学校との情報共有を図りながら、周辺サポートが出来るように検討を重ねていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	プログラムによって参加児童が多くなり、利用希望に添えることが出来ない場合がある。	下校時間が早い日等は、どうしても参加希望が重なってしまうことがある。普段よく利用される児童と、利用頻度が少ない児童の希望が重なった際には、調整が難しい場合がある。	同じプログラムを複数日用意することで、利用が出来るように調整をしているが、幅広くご利用者が分けて参加できるように配慮したい。
2	送迎に関して、児童を迎えに行くことが児童発達支援の通園バスの利用となる為、保護者側にて児童を送れないと、利用し難い面がある。	送迎スタッフと現場待機のスタッフを分けての配置が困難。人力的に余力がない為、改善が難しい現状にある。	引き続き、人員配置は要検討し、送迎への相談に応じる。また、自宅からの距離が近い場合、児童委自身が練習を経て自力で来られる場合もある。社会生活機能を高める為の練習を、低学年の内に一緒に行うことで、本人及び家族への負担を減らせるように支援する。
3	放課後児童クラブや児童館との交流	過去に放課後児童クラブとの交流活動を行っていたこともあったが、放デイの児童が委縮してしまった結果もあった為、積極的な交流は行えていない。	放課後児童クラブでの交流機会が難しい為、それ以外での地域交流の機会を広げている。近隣の大学生や、成人の事業所ご利用者との交流、他の放デイ事業所との交流など、地域に向けた繋がりをより深めていきたい。また、色んな人との出合いや交流を経験した後、児童クラブとの交流も始めたい。